

令和2年度 基本施策評価シート（部別）

基本目標	魅力ある産業を維持・創造するまち
基本方針	農林水産業を振興するまち
基本施策名	農業の振興

	所属	職名	氏名
作成者	耕地林務課	課長	佐藤 明利
評価者	農林部	部長	赤澤 哲也

1 基本施策に対する基本姿勢

現状	市の農業・農村を取り巻く現状は、農業従事者の高齢化や後継者不足、また、農産物販売価格の低迷等、国内農業全般に共通する深刻な課題を抱えています。耕地林務課としては、過去に施工した農業用水利施設が耐用年数を迎え、経年劣化により不具合が生じており、更新事業が必要です。また、担い手集積のために、耕作条件整備を図る必要があります。
基本方針 (目指すべき方向性)	農業を基幹産業としてとらえ、農業の魅力を高め、担い手を確保・育成するとともに、農地の集積を図ることで、農業経営の効率化と安定化を目指します。

2 施策指標

指標	単位	(設定時)	目標値	H30	H31	R 2	達成率	進捗状況	所管課
認定農業者数	経営体	267	270	280	283	272	101.8	順調	農政課
集落営農組織数	組織	27	28	27	27	27	96.4	停滞	農政課

施策指標の進捗状況と分析	
--------------	--

3 基本施策を構成する事務事業の評価

(単位:円)

No	コード	事務事業名	所管課	事業費					事務事業の状況					重点化		
				H30	H31	R 2	R 3	R 4	合計	事業区分	新/継	総合評価	方向性		正規職員数	
1	0106710	三郷農村環境改善センター施設管理事業	耕地担当	9,541,395	9,516,600	8,192,300				27,250,295	施設の管理運営	継続	A	現状のまま実施が適切	0.1	
2	0106720	農村公園施設更新事業	耕地担当	5,400,000	1,252,800	3,680,998	2,504,000	2,637,000	15,474,798	ハード(継続)	継続	A	現状のまま実施が適切	0.1		
3	0106760	農業用水路改修工事(土地改良施設維持管理適正化)	耕地担当	4,019,000	5,389,000	9,456,800	689,000	329,000	19,882,800	ハード(継続)	継続	A	現状のまま実施が適切	0.2		
4	0106780	農地保全活動交付金(多面的機能支払)	耕地担当	233,215,836	254,303,832	239,169,657	267,407,000	267,407,000	1,261,503,325	政策的業務	継続	A	現状のまま実施が適切	2.2		
5	0106790	農業施設維持工事(市単)	耕地担当	36,583,550	43,287,421	58,875,898	38,529,000	38,529,000	215,804,869	ハード(継続)	継続	A	現状のまま実施が適切	0.7		
6	0106820	農業用排水路工事・農道舗装工事(団体営)	耕地担当	49,256,900	40,617,700	8,571,030			98,445,630	ハード(継続)	継続	A	現状のまま実施が適切	0.6		
7	0106835	農道舗装工事(公共施設等適正管理推進事業)	耕地担当			27,728,736	30,000,000		57,728,736	ハード(新規)	新規	A	現状のまま実施が適切	0.2		
8	0106840	ほ場整備負担金(経営体育成基盤整備)	耕地担当	39,470,508	35,492,217	11,460,944			86,423,669	定型業務	継続	A	現状のまま実施が適切	2		
合計				377,487,189	389,859,570	367,136,363	339,129,000	308,902,000	1,782,514,122							

事務事業量とコスト(費用対効果)の分析	<ul style="list-style-type: none"> 三郷農村改善センターについては、指定管理による円滑な運営が図られています。 農村公園遊具更新については、更新による利用者の安心安全を確保することができています。 多面的機能支払交付金事業により、各組織での適正な地域資源の維持管理がされています。また、本年度における広域化の推進として、新たな広域組織の設立、各組織での事務軽減対策として長寿命化工事発注事務等の一元化が図られました。
重点化事務事業の考え方	
縮減・廃止事務事業の考え方	<ul style="list-style-type: none"> 経営体育成基盤整備事業県営ほ場整備鳥川地区は、令和3年度の換地同意により事業完了を進めます。 農村公園遊具更新事業については、業務の一元化により都市建設部へ移管されます。
総合評価(次年度へ向けた課題の抽出含)	<ul style="list-style-type: none"> 多面的機能支払交付金事業については、本年度、42組織が広域協定に参加し、事務局体制を充実させ各活動組織の事務軽減を推進しています。次年度は事務軽減年度スケジュールにより計画的に事業を推進します。 経営体育成基盤整備の県営ほ場整備鳥川地区は、最終同意に向け最終的な補完工事を行ってきました。次年度は若干残った補完工事の完了と換地同意より、地権者総会の開催を進めます。また、農地集積の推進により受益者への費用軽減を図ります。

令和2年度 基本施策評価シート（部別）

基本目標	魅力ある産業を維持・創造するまち
基本方針	農林水産業を振興するまち
基本施策名	林業の振興

	所属	職名	氏名
作成者	耕地林務課	課長	佐藤 明利
評価者	農林部	部長	赤澤 哲也

1 基本施策に対する基本姿勢

現状	木材価格の低迷等により、森林所有者をはじめ地域の森林への関心が薄れ、手入れの行き届かない森林が増加することにより、松くい虫被害が高水準で推移し、有害鳥獣による農林業被害が増加しています。これにより、清らかな水や空気を育み、土砂災害や地球温暖化を防止するなどの森林の持つ多面的機能が低下しています。この多面的機能を発揮するため、間伐等森林整備が必要となっていますが、担い手や後継者不足により健全な森林の育成が進んでいない状況であります。
基本方針 (目指すべき方向性)	担い手や後継者の確保と育成に取り組み、森林の持つ多面的機能を保全し、市民生活の安全性を担保するとともに、豊かな森林の次代への継承を目指します。

2 施策指標

指標	単位	(設定時)	目標値	H30	H31	R 2	達成率	進捗状況	所管課
林業従事者数	人	53	57	53	51	45		停滞	耕地林務課
林内路網	m/ha	30.0	31.7	30.3	30.6	32.5		順調	耕地林務課

施策指標の進捗状況と分析	急激な林業従事者数の減となった。原因は明確ではないが、今後も市として森林整備や松くい虫被害対策の事業委託を林業事業体に行い、担い手確保対策を行っていく必要があります。林内路網に関しては、目標値に達しています。これにより森林整備による木材の搬出が期待されます。
--------------	---

3 基本施策を構成する事務事業の評価

(単位：円)

No	コード	事務事業名	所管課	事業費					事務事業の状況					重点化		
				H30	H31	R 2	R 3	R 4	合計	事業区分	新/継	総合評価	方向性		正規職員数	
1	0106060	有害鳥獣駆除対策事業	林務担当	13,028,499	13,457,736	15,291,431				41,777,666	定型業務	継続	A	現状のまま実施することが適当	1	
2	0106582	林地台帳整備運用事業	林務担当	7,567,614	4,950,000	1,815,000				14,332,614	義務業務	新規	A	現状のまま実施することが適当	0.2	
3	0106590	里山再生計画推進事業	林務担当	2,886,048	3,705,419	4,185,837	5,441,000	4,572,000	20,790,304	政策的業務	継続	A	現状のまま実施することが適当	1.63		
4	0106600	長峰山森林体験交流センター事業	林務担当	14,907,760	14,927,960	16,789,347				46,625,067	施設の管理運営	継続	A	現状のまま実施することが適当	0.1	
5	0106610	松くい虫防除対策事業	林務担当	122,761,716	130,108,456	135,077,966	135,686,000	135,686,000	659,320,138	義務業務	継続	A	現状のまま実施することが適当	1		
6	0106620	松くい虫被害対策更新伐事業	林務担当	13,694,400	7,770,160	5,236,000	8,732,000	7,277,000	42,709,560	ハード(継続)	継続	B	事業の進め方の改善が必要	0.3		
7	0106630	松くい虫防除対策事業市単補助事業	林務担当	25,256,937	20,861,896	19,341,192	27,764,000	27,764,000	120,988,025	政策的業務	継続	A	現状のまま実施することが適当	1		
8	0106640	市有林森林整備事業	林務担当	7,471,417	5,085,224	14,466,898				27,023,539	定型業務	継続	A	現状のまま実施することが適当	0.5	
9	0106665	森林経営管理等整備事業	林務担当			17,996,289	22,317,000	22,317,000	62,630,289	政策的業務	新規	A	現状のまま実施することが適当	0.5		
10	0106670	市単林道維持事業	林務担当	17,340,210	18,219,861	23,671,233				59,231,304	施設の管理運営	継続	A	現状のまま実施することが適当	0.6	
11	0106680	林道危険箇所重点整備事業	林務担当	23,420,880	26,342,000	19,265,400	44,587,000	26,921,000	140,536,280	ハード(継続)	継続	A	現状のまま実施することが適当	0.15		
12	0111020	林道災害復旧事業	林務担当	31,330,800		15,906,000				47,236,800	ハード(継続)	継続	A	災害発生時には事業を適当	0.15	
合計				279,666,281	245,428,712	289,042,593	244,527,000	224,537,000	1,283,201,586							

事務事業量とコスト(費用対効果)の分析	<ul style="list-style-type: none"> 農林業被害や人身被害を防ぐため、猟友会(実施隊)と連携し事業を実施しています。また、サル被害対策としての大型捕獲檻による個体数調整が図られています。 第1次里山再生計画推進による成果と課題から、本年度からは第2次里山再生計画に引継がれ、これまでの取組の継続と新たな取組により、里山再生が推進されています。 森林経営管理制度による手付かず森林の整備に向け、山林所有者へ意向調査が開始され、今後の森林整備の推進へつながっていきます。 松くい虫被害対策は、被害の状況により、地域での対策を見直し、無人ヘリ散布については、来年度から中止と判断しました。また、市単補助については、現状により補助内容を見直しています。 林道危険箇所重点整備事業は、補助金を活用して通行者の安全を確保しているが、補助金の配分や工事施工期間が限られるため、事業の進捗が遅れています。
重点化事務事業の考え方	
縮減・廃止事務事業の考え方	<ul style="list-style-type: none"> 長峰山森林体験交流センター事業は、令和5年度を目標に運営方法の見直し検討をしていきます。 松くい虫被害対策事業に関しては、守るべき松林や、微害地の徹底的な駆除を行い、激害地においてはライフラインの保全のみに限定し事業を実施します。また、無人ヘリ散布については、費用を含めた事業効果を検証し、来年度より中止とします。

令和 2年度 基本施策評価シート (部別)

基本目標	魅力ある産業を維持・創造するまち
基本方針	農林水産業を振興するまち
基本施策名	林業の振興

	所属	職名	氏名
作成者	耕地林務課	課長	佐藤 明利
評価者	農林部	部長	赤澤 哲也

総合評価 (次年度へ向けた課題の抽出含)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 猟友会との連携により有害鳥獣対策が図られたが、ツキノワグマによる人身被害が1件発生してしまった。次年度については人身被害が発生しない対策強化が必要です。また、里に出没するサルによる被害が増えていることから、次年度はサル対策の強化として、地域との連携を図り組織づくりを進めます。 ・ 森林経営管理制度により、意向調査を実施し、手付かず森林の整備に向け事業を推進していきます。 ・ 本年度から始まった第2次里山再生計画により、新たな取組として子ども世代へアプローチすることで、里山再生を推進していきます。 ・ 長峰山森林体験交流センターについては、施設の老朽化対応や施設の譲渡等に向けた具体的な検討を進めていきます。 ・ 林道危険箇所重点整備事業は、国の補助事業により計画的に実施していきます。
-------------------------	---